なぜ、本物にこだ

俳優として活躍した後、日本神話語りプロジェクトで日本全国の神社を巡り、日本の伝統を受け継ぐ建築にも数多く触れている清水さんと、手刻みの家づくりにこだわり、木を知りつくした白川社長のスペシャル対談。

TUNEFUMI
SHIRAKAWA
代表
白川 恒文

祖父の代より材木業を営み、確かな木を見極める父のもとの修行、その後を継ぎ25歳で起業。以来30年以上、木と向き合い大工の手刻みの家づくりにこだわる。日本古来の家づくりの良さと、現代の生活に合う断熱住宅性能にも人一倍こだわり、常に最新の技術と探究心を持ち続け、快適であり代々継がれる家を提供できるように勉強している。

—清水さんの物を選ぶ基準とは何ですか？

清水：ストーリーがある手仕事の物を選ぶことですね。むしろ、ブランドは見ない。情熱とストーリーがある物を選ぶようにしています。余談ですが、神道に偶然はない。物でも人でも巡りあったなら、きっと初めからそこに行くようになっている。この家も、そういう巡り合わせだと思いますね。

—なぜ白川建設さんを選ばれたのですか？

清水：初めに感心したのは、すでに施主さんが住んでいる家の中を見学させてくれたことです。一般的にモデルハウスとして見学させてくれる家は住む前じゃないですか。要するに施主さんとの信頼関係の深さにびっくりしましたね。そして、現場でも職人さんと白川さんのあったかい雰囲気が妙に心地よかったですね。最後には、みんなが座り込んで話していましたから。

白川：そのときは清水さんの奥さんのご両親と一緒に来られてましたね。

清水：そう。家内のご両親がまず木を知っている白川さんに職人魂を感じたそうです。その後に話が進むと、「これ、うちが 30 年前に建てた家です」と言って、どんどん今まで建てた家をぜんぶ見せてくれる。その姿勢に、信頼感を持ちましたね。

白川：お宝ご拝見ツアーにも参加していただきましたよね。

清水：そうそう。お宝って何だろうなって思っていたら、白川さんが代々持ち続けてきた木のことですよ。「こんな木がありますよ」と嬉しそうに見せてくれました。僕らからすると薄汚れて木目も見えないようなものなんです。それが、白川さんの工場で磨かれていくと、みるみる立派な立派な木に変わっていく。そして新しく建てる家の柱になったときに、「ああ、あの木がこんな風に使われるのだ」って初めて知る。そして、そこに白川さんの技を見る。

僕らは神社の造営や修造を拝見させていただく機会が多いのですが、それ自体が庶民には縁遠い匠の技だと感じます。すばらしい木組みで、釘も使わないでよく組み立てられているんだなと思っていたときに、白川さんの建てた家で、その技術がポンっと目の前に出された感じですね。そこに、またびっくりしました。

僕らと白川さんがこだわって建てた家を是非みたいと、全国から観に来るのだけど「こういう木に囲まれた家にあこがれていてもなかなか造れない」と言います。

白川建設が建てた清水さんの家

本物を知る人が選んだ手仕事の家

❶ 質感のある梁とティファニーブルーの組み合わせが異国情緒あふれる寝室。安定感のある二重梁と木組みに日本の伝統美と職人の技を感じる

❷ リビングは 1 日を始める場所。元気が出るよう、ビタミンカラーの珪藻土を塗った。照明器具には白樺で作ったフィンランド製をセレクトした

❸ ダイニングとは別に、開放的なリビングを用意。昼は広くとった窓から降り注ぐ自然光、夜は間接照明。昼と夜で違った趣を楽しめる